

# 奨学金留学生事業 交流会実施報告

## 関西エリア交流会（大阪）

### 関西交流会実行委員

大阪大学	博士4年	王維寧
広島大学	博士3年	何雅臻
大阪大学	修士2年	李煥然
鳴門教育大学	修士2年	李千菁
京都大学	学部2年	陳佩妮

昨年度はコロナ禍のためオンライン形式での交流会のみ実施したが、今年度（2022）は感染防止対策を講じたうえで、対面での交流会を地域別（関東・関西）で実施した。該当地域の留学生に限らず、参加を希望する奨学生はどちらでも申込可能とした。日本台湾交流協会に手厚くサポートして頂き、実行委員で交流会の内容を企画した。夏には感染拡大状況が悪化したため、一度延期になったが、10月に関西エリア交流会はようやく無事に大阪で開催することができた。

関西エリア交流会の実行委員メンバーは、大学・所属もそれぞれ異なる学部生と大学院生の5人で構成された。関西エリア実行委員といわれているが、中四国エリアの大学に在籍しているメンバーも含まれている。実行委員は研究や勉強で多忙な日々を送る中でも工夫して時間を捻出し、月に一回オンラインでコンテンツの内容を話し合ったり、考えたことが実現できるような方法を一緒に考えたり、今回の関西エリア交流会の企画・準備を行い開催した。

対面での交流会を通して、初対面でもすぐ会話が盛り上がり、短時間で交流を深められることを考えた上で、得点を稼ぐゲームを取り入れた。そこで、人気ドラマのパロディコンテンツ要素を盛り込み、チームに分かれる対戦形式で、チームメンバーと協力して目標をクリアするレクリエーションゲームを企画した。内容としては「だるまんころんだ」、「ガチャガチャの謎解き」、「DIYで紙のタコを作る」、「タコの攻防ゲーム」であり、一見子ども向けのゲームに見えるが、実際には、「お互いを知るまでの時間を短縮できる」、「チームワークの向上する」、「参加者同士のコミュニケ

ーションが活性化される」、「体を動かしてストレスを発散する」などを目的としていた。

実行委員も含め、当日の参加者は東京、名古屋、京都、大阪、神戸、広島からの高校生（1名）、大学生（4名）や大学院生（16名）で、合計21名が参加した。院生が圧倒的に多く占めているので、最初はこのような形で行うことに対して多少なりとも不安もあったが、参加者から、「子供時代を再び味わえ、懐かしい気分になれる内容」という評価をもらった。さらに、日本台湾交流協会のご厚意で、日台友情50周年グッズを提供していただき、より交流会が盛り上がった。ゲームの勝ち負けに関係なく、参加者たちは楽しそうにしており、交流会終了後にはお互いのSNS交換や私的な話などもしていたので、これからの交流の足掛かりになったと思う。

私たちの企画は、改善すべき点多かったと思うが、参加者の皆さんが熱心に参加してくれ、笑顔も見られたので、喜んでもらったのかなと感じた。楽しい時間を過ごしてもらえたのなら、何よりも嬉しく思う。

裏話として、交流会の準備はすべてが順調に進んだわけではなかった。それでも頑張って実行委員の仕事の続け、メンバーで意見を出し合い、お互いに助け合いながら乗り越えてきた。本気を出した後は達成感があつた。これは、交流会だけではなく、すべてに共通することだと思う。また、通常、同じ大学内での関わりしかないので、他大学の実行委員と一緒にイベントを企画することはとても新鮮で、普段とは違う考えに触れることができた。このような会に実行委員として参加し、奨学生同士と交流が持てたことは自分の中の良い思い出であり、良い経験になったと実行委員一同思っている。

今回の地域別の交流会は試験的に実施されたものだが、対面で奨学生同士の交流の楽しさを実感し、お互いに充実感と達成感を味わったことで、次回への参加意欲が向上することも繋がっているといえるだろう。当日には参加者から「他大学の奨学生と出会えたり、留学生活の話が盛り上がりやすくなることで、自分の進むべき方向が見えて歩む勇気が出てきた。」「自分と同じ大学院



交流会での記念撮影



すみだ水族館の前で記念撮影

生という立場で少しでも近い研究をしている人がいるということを実感できたのはとても面白かった。」などの感想を聞いた。また、開催後に実施したアンケートでは、「今回の交流会は参加して良かった！ また今度このようなイベントに参加したい！」、「ほかの形（例えば、会食、講座、勉強会、文化体験、観光散策など）の交流会も楽しみにしている！」とのフィードバックがあった。今後、奨学生同士の横の繋がりも広げられ、多様な形で奨学生同士が交流できる機会が増えるだろうと期待している。

## 関東エリア交流会（東京）

### 関東交流会実行委員

東京医科歯科大学	博士3年	黄淳碩
群馬大学	博士3年	周立杰
東京都立大学	博士1年	陳彦嘉
筑波大学	修士2年	熊珮安
明治大学	修士2年	呉怡萱

秋もだいぶ深まってきて、浅草寺から静かに日が昇る頃、奨学金留学生たちの初顔合わせ、これが私たちの友情の始まりとなりました。以前は、コロナ禍の影響により、対面交流会の代わりにオンライン交流会が開催されました。しかし、画面越しでの参加はどうしても距離感を感じ、親交を深められませんでした。今回は対面交流会となり、皆さんから積極的に参加していただき、交流会への期待を感じました。

2022年10月22日に日本台湾交流協会からのご支援のおかげで、3年ぶりの対面留学生交流会を開催することができました。今回は実行委員会のメンバーとして企画から運営に関わりました。初めての台湾奨学金留学生との対面交流はもちろん、実行委員としての貴重な体験もさせていただきました。

交流会は1日のみで非常に短い時間の中で開催されました。「いっぱいしゃべって、いっぱい歩

こう！」を交流会のテーマとし、グループ分けの形で交流活動を進めることにしました。また、より多くの人と交流できるように、午前と午後のグループを分けました。午前中は日本の名所である浅草で散策しました。久しぶりの台湾語で会話することもあり、皆さんは大興奮でした。お昼の会食の際に、皆さんは学校生活から普段の暮らしのエピソードまで、それぞれの地域の面白い話など色々な在日留学経験について意見交換していました。また、異なる分野の研究内容をより深く知ることだけでなく、将来の夢についても語り合うことができました。東京で交流会に参加していたが、日本全国を回ったような気持ちになりました。

午前中のグループ活動がすでに盛り上がっていたので、皆さんが午後の新しいグループに入っても気まづくならず、すぐに仲良くできました。交流会の根本理念である日本にいる留学生たちの繋がりがこの瞬間に叶いました！感動いっぱいです。午後の予定はスカイツリーにあるすみだ水族館での観覧でした。皆さんと水族館を回り、かわいいペンギンや美しいクラゲなどの海洋生物に癒され、普段多忙な研究生活の息抜きになりました。最後皆さんが笑顔で「一緒に頑張りましょう！」とお互いにエールを送り、この姿を見てかけがえのないものが胸に残りました。

今回参加した留学生の中には、既に何年も日本に滞在している方のほか、高校生や10月に来たばかりの留学生もいました。皆さんが来日した時に、多少不安を感じたこともあったでしょう。おかげさまで、交流協会とたくさんの方々からのサポートに恵まれ、充実した留学生活を送ることができました。心より御礼申し上げます！今回の交流会を通じて、様々な夢や面白い考えを持っている人々と交流することができ、今後もお互いに支え合い、助け合えると考えました。これ以上貴重な交流経験はありません！ 今後は留学生生活から積んできた経験と培った能力を活かし、留学生イベントや日台間事業に携わり、社会への貢献ができると幸いです。